

# 「女性医師にやさしい病院評価」から 「働きやすい病院評価」に名称変更へ

## ～女性医師のキャリア形成・維持・向上をめざす会～

「育児支援」「復職支援、再就職支援」「女性医師のキャリア形成育成策」「女性医師にやさしい病院づくりのための啓発」等8分野について、その状況と今後の計画を確認し、認証する「女性医師にやさしい病院評価事業（愛称・ホスピレート）」が、名称変更を決めた。

運営する特定非営利活動法人・女性医師のキャリア形成・維持・向上をめざす会（略称・イージェイネット）は、去る10月1日、「事業名称変更についての経緯」と題する文書を発表。「働きやすい病院評価～女性医師・すべての医療従事者にやさしい病院～」として、運営することになった。

### 受審病院側から 抵抗感が

7月末に初の認証を出して、約2ヵ月ほどで名称変更した経緯について、イージェイネット代表の瀧野敏子氏は、「事業説明会等で、『女性医師にやさしい』というネーミングに抵抗がある、という意見を何度かお聞きしました」

実際に受審した病院からの意見にも影響を受けたようだ。

「女性医師にやさしい」と表現すると、男性医師から敬遠される病院になっては困るとか、女性医師だけが優遇されては困るといふ女性医師自身からの意見もありました。この認証事業は、そ

もそも女性だけでなく、男性医師や医療従事者全体の働き方を考えるというスタンスに立っており、事業目的に照らして「働きやすい病院評価事業」に名称を変更することにしました」

辛口の意見も出たという。

「病院としては、一生懸命に仕事をしたいと思う女性医師を採用したいのにも、『女性医師にやさしい』と表記することで、制度やサービスの利用だけを目指すような女性医師が集まってしまう」という意見もありました」

### 認証病院は 7割以上の達成率

大阪厚生年金病院（7月）に引き続



▲「働きやすい病院評価」認定証

き、聖隷三方原病院（8月）、北野病院（10月）と、3病院に対して「働きやすい病院評価」の認証を出した。

認証制度が始まったばかりというところもあり、代表の瀧野氏自身が審査対象病院に向いて、経営トップへのヒアリングをしている。

「人材供給を担うことが難しい大学医局が増えていくことで、病院も医師採用の仕組みや仕掛けを考えなければ、優秀な人材を採用できないと、どの院長も考えていることが印象的でした」

「働きやすい病院評価」は、基準に基づき審査を進めているが、厳しく減点法で評価するのではなく、将来に向けて努力する姿勢が認められれば、認証

を与えるという姿勢で運営している。認証済の病院は、どのような評価だったのだろうか。

「3病院は合計点で7割以上達成しており、認証にあたって付帯条件をつけたところはありませぬ。女性医師を積極的に登用しようと、制度、施設の整備を進めていました」

### 介護・育児休業、 広報が手簿

では、認証を得た病院が「100点満点」ではなかった理由は何だろうか。「介護・育児休業など、医療界全体で課題になっている部分は、どの病院も実際に取得できている人は少なく、努力が必要でした。また、せっかく良い制度があっても対外的な広報活動は、いずれも手薄でした」

いま、認証病院は「働きやすい病院評価」の認証取得を積極的に広報し、地元紙やテレビの報道、医療系をはじめとする各雑誌等での記事掲載に結びつけている。

「この夏、認証をきっかけとして、実際に女性医師が就職した病院も出ました。この制度に注目している女性医師も多いのではないのでしょうか」

イージェイネットは、積極的に事業説明会を開催し、現在、受審を検討している病院は20軒以上。年度末までに3病院の受審が決定している。